

いもち病の発生に留意し、適期の対策を実施しましょう！

いもち病は、水稻で最も重要な病害の一つで、葉いもちの発生は、減収に直結する穂いもちの発生要因となります。

6 月下旬にいもち病の発生調査を行った結果、葉いもちの発生は場率は平年よりやや高く（表 1）、発生株率を考慮すると全般に平年並の発生でした。また、BLASTAM による葉いもち感染好適条件は 6 月中旬以降に連続して出現しています（表 2）。

気象庁発表の 1 か月予報（7／13～8／12）では、気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間は少ないため、いもち病の発生にはやや適しています。

今年は出穂が平年より早まることが予測されているため、例年発生の多いほ場を中心に、早めに適切な防除を行いましょう。

表 1 葉いもちの発生状況調査結果（6 月下旬）

地区	調査ほ場数	発生ほ場率（％）	
		本年値	平年値
県北	30	13.3	7.3
県央	27	10.7	9.7
県南	20	10.0	7.0
県全体	77	11.5	8.0

表 2 BLASTAM による 6 月中旬以降の葉いもちの感染好適条件の出現日数

日付	那須	黒磯	大田原	塩谷	真岡	宇都宮	今市	鹿沼	小山	佐野
6/17	○	－	－	●	●	－	－	－	－	○
6/18	○	●	－	●	－	－	－	●	－	－
6/19	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/20	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/21	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/22	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/23	○	○	○	○	－	－	－	－	－	○
6/24	○	●	－	－	－	－	－	●	●	－
6/25	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/26	－	－	●	●	－	－	－	●	－	－
6/27	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/28	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
6/29	－	●	－	●	●	－	－	－	－	－
6/30	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
7/01	○	●	●	－	－	－	－	－	●	－
7/02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
7/03	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
7/04	●	－	－	－	－	－	－	－	－	－
7/05	－	－	－	－	－	－	－	－	－	○
7/06	●	－	－	－	－	－	－	○	○	－
7/07	○	－	－	－	－	－	－	－	○	－

●：感染好適条件：湿潤時間中の平均気温が 15～25℃であるなどの気象条件。

これの出現した日から 7～10 日後に発病する可能性がある。

○：準感染好適条件

好適条件に準ずる気象条件。



写真1 葉いもち（停滞型病斑）



写真2 穂いもち（○内）

●防除対策

- （1）ほ場内をよく観察し、いもち病の発生状況を確認する。特に、山間地域の常発地や葉色の濃いほ場、箱施用剤を使用しなかったほ場では特に注意する。
- （2）上位葉に葉いもちが多いと、穂いもちが多くなるので、表3を参考に穂いもち防除を徹底する。
- （3）液剤で防除する場合、出穂直前から穂ぞろい期に防除を行う。
- （4）粒剤で防除する場合、効果の発現までに7～10日かかるので、適切な時期に使用する。
- （5）葉いもちに効果のある予防剤（箱施用剤など）を施用したほ場でも被害が発生することがあるので、発生状況を見てRACコードの異なる薬剤を使用して防除を行う。

表3 いもち病に登録のある主な薬剤

（令和6年(2024)年6月30日現在）

薬剤名	希釈倍数 使用量	使用時期	本剤の 使用回数	有効成分	成分 総使用回数	FRACコード
ブラシンフロアブル	1000倍	収穫7日前まで	2回以内	フェリムゾン フサライド	2回以内 3回以内	U14 16.1
ダブルカットフロアブル	1000倍	穂揃期まで	2回以内	カスガマイシン トリシクラゾール	4回以内 4回以内	24 16.1
カスミン液剤	1000倍	穂揃期まで	2回以内	カスガマイシン	4回以内	24
トライフロアブル	1000倍	収穫14日前まで	2回以内	テブフロキン	2回以内	U16
コラトップ豆つぶ	250～375g/10a	葉いもちに対しては 初発10日前～初発時 穂いもちに対しては 出穂30日前～5日前まで	2回以内	ピロキロン	3回以内	16.1

詳細は、農業総合研究センター防除課（Tel. 028-665-1244）までお問合せ下さい。
 病害虫情報発表のお知らせは「農政部X（@tochigi_nousei）」、
 農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）
 でもご覧になれます。



6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。

いつものチェック！ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！



斑点米カメムシ類の防除が必要です！

7月上中旬の雑草地等すくい取り調査の結果は以下のとおりです。

- 斑点米カメムシ類（写真1）全体の捕獲数は多い（平年比182%）（表1）。
 - ・大型のカメムシ類であるクモヘリカメムシ（写真2）はやや少なく（平年比59%）、ホソハリカメムシはやや多い（平年比158%）。
 - ※ イネカメムシを県内2地点で確認（写真3）。
 - ・小型のカメムシ類であるカスミカメムシ類（イネホソミドリカスミカメ（別名：アカヒゲホソミドリカスミカメ）、アカスジカスミカメ）は平年より多い（平年比190%）。

気象庁発表の1か月予報（7/13～8/12）では、向こう1か月の平均気温は高いと予想されているため、斑点米カメムシ類の増殖や活動に好適な条件が続くと考えられます。また、高温傾向のため、水稻の出穂期が例年より早まると予測されています。

水稻のほ場内外をよく観察し、裏面の【防除対策】を参考に、適期防除を行いましょう。

表1 すくい取り調査による斑点米カメムシ類捕獲虫数（調査日：7月上中旬）

頭数	クモヘリカメムシ	ホソハリカメムシ	カスミカメ類※2	斑点米カメムシ類 合計
本年値	11.9	5.8	431.7	463.4
平年値	20.3	3.7	227.0	254.3
(平年比(%))	(59)	(158)	(190)	(182)
発生程度	やや少	やや多	多	多

- ※1 令和6年7月上中旬にイネ科雑草地等33地点を調査
各地点20回振りのすくい取り調査
- ※2 カスミカメ類は、イネホソミドリカスミカメとアカスジカスミカメの合計値



写真1 栃木県の斑点米カメムシ類の主要種

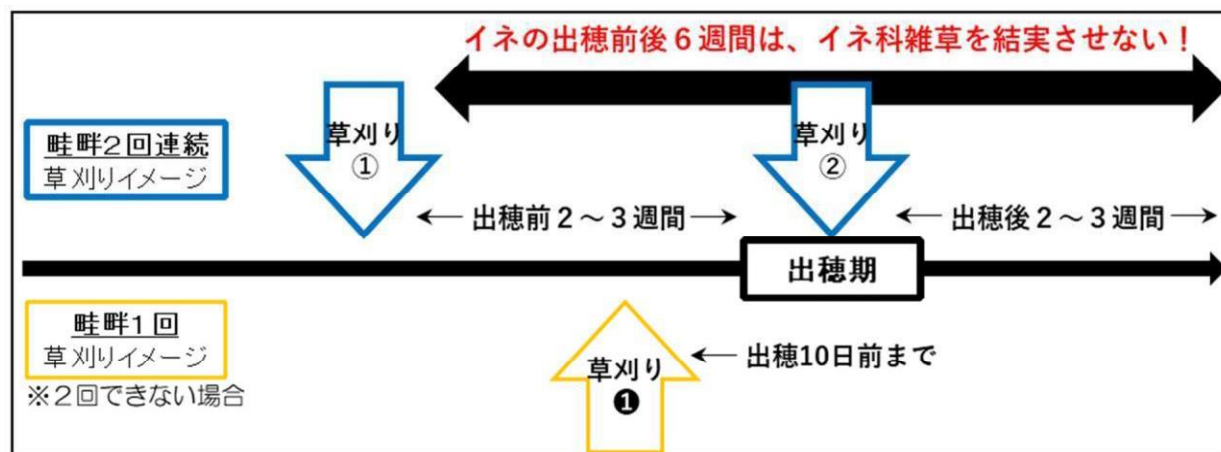


写真2 水稻上のクモヘリカメムシ成虫

【防除対策】

1 除草

- (1) 水田畦畔、農道、休耕田等のイネ科雑草は増殖源、誘引源となり、水田内のノビエやイヌホタルイなどの雑草は水田内への誘引源となるため、これらを結実させないような管理が重要である。
- (2) 特に、水田周辺のイネ科雑草の結実を長期間抑え、カメムシ類の水田への侵入を防ぐため、水稻の出穂2～3週間前と出穂期頃の2回除草を行う。両時期の除草ができない場合は、水稻の出穂期10日前までに除草を行う。
 - ※ 出穂期前後のみの除草は、カメムシ類を水田へ追い込み、水稻の穂を集中加害させることになるため、原則行わない。
 - ※ 病虫害防除対策のポイントNo.16「斑点米カメムシ類の防除対策」参照
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/boujo/documents/point16.pdf>



2 薬剤防除

- (1) 出穂期から穂ぞろい期頃に水田内で斑点米カメムシ類が認められる場合には、液剤は出穂期7～10日後まで、粒剤は出穂期～出穂期7日後までに散布する（表2）。
- (2) その後も斑点米カメムシ類が認められる場合は、7～10日間隔で1～2回追加防除する。
 - ※ 小型のカメムシ類には粒剤や豆粒剤の防除効果があるが、大型のカメムシ類は、粉剤や液剤で防除する（直接薬剤がかからないと薬剤の効果が十分に発揮されないため）

表2 水稻のカメムシ類に登録のある主な薬剤（令和6（2024）年7月10日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分	農薬の系統	IRAC コード
ダントツ粒剤	3～4 kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン	ネオニコチノイド	4A
スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン		
エクシードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	スルホキサフロル	スルホキシイミン	4C
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで	3回以内	エトフェンブロックス	ピレスロイド	3A
キラップフロアブル	1000～2000倍	収穫14日前まで	2回以内	エチプロール	フェニルピラゾール	2B

注1：IRACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

注2：斑点米カメムシ類の薬剤防除は、水田周辺のミツバチに影響を及ぼす可能性があるため、地域の養蜂家へ薬剤防除日を事前に周知する等の積極的な対応を行う。

【イネカメムシについて】

イネカメムシは大型の斑点米カメムシ類の一種です（写真3～5）。基部斑点米を発生させる他、ほ場内に多発生し、出穂期から登熟初期に集中的に籾を吸汁されると、不稔を発生させます。

県内でも、既に局所的に発生が確認されていることから、ほ場内をよく観察し、早期発見・早期防除に努めましょう。

○ 薬剤防除

- （1）不稔防止のため、出穂期に液剤を散布することが重要である。

なお、クモヘリカメムシ等、他の主要な斑点米カメムシ類と防除時期が異なるので注意する。

- （2）斑点米防止のため、乳熟期（出穂期7～10日後頃）に液剤を散布する。その後も発生が認められる場合には、追加防除を実施する。

※ 薬剤は表2を参照



写真3 セイバンモロコシ（イネ科雑草）の穂上の成虫



写真4 水稻の葉上の成虫
（体長12～13mm）



写真5 水稻の穂上の成虫

詳細は、農業総合研究センター（Tel 028-665-1244）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「農政部X（旧ツイッター）（@tochigi_nousei）」、栃木県農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/>）でもご覧になれます。



6月～8月は「栃木県農薬危害防止運動」の実施期間です。
いつものチェック！ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！



高温・晴天が続くことが予想されるため、 なしのハダニ類の増加に注意が必要です！

1 発生状況

7月のなし巡回調査では、ハダニ類の発生ほ場率が21.4%（平年比389%）と多い状況です。関東地方では7月18日に梅雨明けが発表されました。また、気象庁発表の1か月予報（7月20日～8月19日）では、今後は気温がかなり高く、平年と同様に晴れの日が多いと予想されています。高温乾燥を好むハダニ類に好適な条件が続くため、発生増加が懸念されます。

また、本年は果樹カメムシ類が非常に多く発生しており、防除に非選択性殺虫剤が使用されることで、天敵の減少によるハダニ類の多発生を引き起こすおそれがあります。こまめに園内のハダニ類の発生状況を確認し、被害が発生する前に、適切に防除しましょう。

2 被害

なしでは、主にナミハダニ、カンザワハダニ等が発生します（写真1）。ハダニ類が寄生すると、葉裏の褐変や、葉表のかすり症状がみられます（写真2）。被害が進むと被害部の枯死・褐変による葉焼け症状を呈し、最終的に早期落葉と花芽の充実不足に繋がり、翌春の開花数減少や発芽の遅れ・不揃いが生じるおそれがあります（写真3）。



写真1 ナミハダニ（左）とカンザワハダニ（右）



写真2 ハダニ類の被害による葉裏の褐変（上）と葉表のかすり症状（下）



写真3 ハダニ多発園における葉焼け症状と徒長枝の落葉

3 防除対策と注意点

- ・園内の葉を観察し、写真1～3を参考にハダニ類の寄生が認められたら、表1を参考に薬剤を散布する。
- ・ハダニ類は葉裏に寄生するため、殺ダニ剤散布時には薬剤が葉裏にしっかり付着するように散布する。特に、気門封鎖剤は直接かからなければ効果が得られないので注意する。
- ・一般に気門封鎖剤は殺卵効果が低いので、ふ化幼虫対策として、数日間隔をあけて複数回散布するか、殺卵効果のある薬剤を併用する。
- ・殺ダニ剤散布直後の除草は、下草のハダニ類が樹上に移動することがあるため注意する。
- ・スピードスプレーヤーによる防除では、園地外周部で散布ムラが生じやすいため注意する。
- ・ダニオーテフロアブル等の一部の薬剤は、銅剤の近接散布で効果が低下するため、使用する前にラベルやチラシの注意書きをよく確認する。
- ・ダニゲッターフロアブルは、水稻の開花期に薬剤がかかると不稔を生じるおそれがあるので、水稻と隣接する園地では注意する。
- ・ハダニ類に対する、天敵製剤の放飼や土着天敵の保護利用に取り組む園地では、天敵に影響のある薬剤の使用をできるだけ控える。ただし、カメムシ類の発生時には、果実を直接加害される懸念があることから、必要に応じて防除を行う。

表1 なしのハダニ類に登録のある主な薬剤（令和6（2024）年7月24日現在）

農薬名	希釈倍数 又は 使用量	使用時期	本剤の 使用 回数	成分	農薬の系統	IRAC コード 注1)
コロマイト水和剤	2000倍	収穫前日まで	1回	ミルベメクチン	マクロライド	6
カネマイトフロアブル	1000～ 1500倍	収穫前日まで	1回	アセキノシル	アセキノシル	20(B)
マイトコーネフロアブル	1000～ 1500倍	収穫前日まで	1回	ビフェナゼート	ビフェナゼート	20(D)
ダニゲッターフロアブル	2000倍	収穫前日まで	1回	スピロメシフェン	環状ケトエノール	23
ダニコングフロアブル	2000倍	収穫前日まで	1回	ピフルブミド	カルボキサニリド	25B
ダニオーテフロアブル	2000倍	収穫前日まで	1回	アシノナビル	アシノナビル	33
アカリタッチ乳剤 ^{注2)}	1000～ 2000倍	収穫前日まで	—	プロピレングリコ ールモノ脂肪酸エ ステル	脂肪酸（気門封鎖）	未分類
ムシラップ ^{注3)}	500倍	収穫前日まで	—	ソルビタン脂肪酸 エステル	その他（気門封鎖）	未分類
粘着くん水和剤 ^{注4)}	500倍	収穫前日まで	—	デンプン	その他（気門封鎖）	未分類

注1：薬剤感受性低下を防ぐため、IRACコードの異なる薬剤のローテーション散布に努める。

注2：果樹類（りんご、おうとうを除く）

注3：果樹類

注4：果樹類（かんきつを除く）

詳細は、農業総合研究センター（TEL 028-665-1244）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「農政部X（旧ツイッター）（@tochigi_nousei）」、栃木県農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/>）でもご覧になれます。



6月～8月は「栃木県農業危害防止運動」の実施期間です。
いつものチェック！ 農薬を使用する際は、ラベルをよく読み正しく使いましょう！



3 主要農作物病害虫の発生状況と原因解析（令和5（2023）年度確定）

1）普通作物

（1）水稲

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
苗立枯病	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：多	4月中旬の育苗期における発生は多かった。フザリウム属菌による被害が確認された。	育苗期間中の高温により、本病が発生しやすくなったと考えられる。
葉いもち	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：少	6月下旬～7月上旬の発生はやや多かったが、7月中旬以降発生はやや少なかった。	6月中旬にBLASTAMの感染好適条件が連続して出現したものの、7月以降は高温多照で推移し、上位葉への病徴進展は抑えられた。
穂いもち	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや少	県北部と県南部で発生が見られた。8月下旬～9月中旬の発生はやや少なかった。	感染源となる葉いもちの発生がやや少なく、7月以降は高温多照で推移したため、穂いもちへの移行は少なく、発生はやや少なかった。
紋枯病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	6～7月の発生はやや多から多で推移したが、8月以降の発生は平年並であった。	6月は平年よりも気温が高く、降雨が多かったことから、水平進展が見られた。7月以降、高温で推移したが、降雨が平年より少なかったことで、上位葉鞘への垂直進展は拡大しなかった。
ばか苗病	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：少	育苗箱での発生が一部で見られた。	適切な種子消毒や育苗管理により、発生は一部地域にとどまった。
もみ枯細菌病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：多	育苗箱での発生が一部で見られた。	適切な種子消毒や育苗管理により、発生は一部地域にとどまった。
縞葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：やや多	6～8月の発生は平年並で推移した。8月上旬以降、県中南部では、穂の出すくみや不稔などの後期発病が見られた。	ヒメトビウンカ第1世代幼虫の保毒率は3.0%と昨年同様であった。
稲こうじ病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや少	県全域で発生が見られたが発病程度は軽く、平年よりやや少ない発生であった。	穂ばらみ期から出穂期にかけて、発病に好適な低温・多雨条件とならなかったため、感染が抑制された。
白葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：－	定点調査での発生は見られなかった。	8月15日の台風7号の影響が懸念されたが、発生は確認されなかった。
ごま葉枯病	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：－	県北部・県南部の一部ほ場で発生が見られた。穂枯れに至るほ場は確認されなかった。	本田後期の高温により発生が助長された。
ニカメイガ	平年：やや早 前年：やや早	平年：並 前年：並	フェロモントラップによるニカメイガの誘殺数は、地点によりばらつきはあったが、やや多かった。7月中旬の心枯茎の発生は平年並、8月下旬の白穂の発生も平年並であった。	平年並であった。
セジロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	予察灯における誘殺は見られず、平年よりも少なかった。水田すくいとり調査では、7月は平年よりも少なく、8月ではやや少なかった。	本県への飛来は少なかった。
トビロウンカ	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	予察灯における誘殺は見られなかった。	本県への飛来は少なかった。
ヒメトビウンカ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	予察灯における総誘殺数は、平年よりやや少なかった。水田すくいとり調査の発生量は、7月上旬は平年並、8月上旬は多かった。	越冬世代の密度はやや少なかった。気温が平年よりもかなり高く推移したが、発生量はやや多い程度で推移した。
ツマグロヨコバイ	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	5月から9月までの予察灯における総誘殺数はやや多かった。水田すくいとり調査の発生量は、7月上旬・8月上旬ともに平年並であった。	気温が高めに推移するなど、発生量がやや多かった。
斑点米カメムシ類 （ホソヘリカメムシ、クモヘリカメムシ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ）	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	水田すくいとり調査における主要4種の合計は7月、8月ともに平年並であった。フェロモントラップによるクモヘリカメムシの誘殺数は場所によりばらつきがあるが、平年並であった。	3月以降気温が高く推移し、カメムシ類の活動に有利な条件であったが、調査では平年並の発生であった。
コブノメイガ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	予察灯及び水田すくいとり調査で本虫の誘殺は見られなかった。	本県への飛来は少なかった。
イネミズゾウムシ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	令和5年2月の越冬密度調査では、成虫密度は平年に比べやや多かった。5月下旬のほ場調査では、平年並の発生であった。	越冬世代成虫の越冬密度はやや多かったが、3月以降気温が高く推移したものの、本田では平年並の発生となった。
イネドロオイムシ	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	6月下旬のほ場調査での発生ほ場数は平年並であったが、発生程度はやや少なかった。	気温は高く推移し、発生には適さない条件であった。
イネツトムシ（イチモンジセセリ）	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	水田すくいとり調査では、7月は少なく、8月はやや少なかった。ほ場調査では、7月上旬が平年並、8月上旬がやや少ない発生量であった。	適切な防除が行われたため、本県での発生は少なかった。
イナゴ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：やや少	水田すくいとり調査では、7月は平年並、8月はやや少なかった。	
フタオビコヤガ	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：やや多	予察灯ではごくわずかに誘殺された。水田すくいとり調査では8月にわずかに確認された。	

(2) 麦

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病類	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：－	定点調査での発生は見られなかった。	昨年も発生は確認されず、伝染源は少なかったと推定される。
うどんこ病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：やや少	定点調査での発生は見られなかった。	適切な防除により発生が抑えられた。
赤かび病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：やや少	5月上旬は発生が見られなかったが、5月中下旬はやや多い発生であった。	5月上旬の多雨により発生が助長された。

(3) 大豆

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
紫斑病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：やや多	生育期の茎葉における発生は確認されなかった。子実への被害粒発生はやや多かった。	前年の発生がやや多かったため、被害残渣が伝染源となり、やや多い発生となったと推察される。
べと病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	生育期の茎葉における発生は平年並からやや多で推移した。子実への被害粒発生は平年並であった。	「里のほほえみ」はべと病に感染しやすいが、発病に好適な冷涼・多雨条件ではなかったため、発生は平年並であった。
アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：やや少 前年：並	ほ場における発生は、8月はやや少なく、9月は少なかった。	
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数は、地点によりばらつきはあるが、平年並。ほ場における発生はやや少なかった。	適切な防除により、農作物被害はやや少なかった。
吸蜜性カメムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	フェロモントラップによるホソヘリカメムシの誘殺数は、地点によりばらつきはあるが平年並。ほ場における発生も平年並であった。	ほ場では主にイチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシが観察された。
シロイチモジヨトウ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	定点調査での発生は見られなかった。	
マメシクイガ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：多	子実調査で、平年並の被害粒発生であった。	気温が高めに推移するなど、発生量が多かったと推察される。
フタスジヒメハムシ	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：やや多	子実調査で、平年並の被害粒発生であった。	気温が高めに推移するなど、発生量が多かったと推察される。

2) 野菜

(1) いちご (親株・育苗床)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	やや少ない発生であった。	適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
萎黄病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	無病苗を利用することにより、育苗期での発生は抑えられていた。
灰色かび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	7月にやや少ない発生であった。	一部の軟弱徒長、過密になっている親株で梅雨により多く発生した。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	一般的に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	一般的に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	一般的にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

いちご (本ば)

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
炭疽病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	初期は少ない発生であったが、1月～3月にかけて発生がやや多くなった。	潜在的な感染株があり、除去が遅れた。
萎黄病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	1月のみ発生が散見された。	適切な防除により発生が抑えられた。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	2、3月に発生が見られた。	ハウスサイドの低温多湿になりやすい場所で、発生が多く見られた。
うどんこ病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	一般的に平年より少ない発生となった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：やや遅 前年：並	平年：やや多 前年：並	一般的に平年並～やや多い発生で推移した。	近年、ハダニ類天敵の普及によって全体的な薬剤散布回数が減っており、また一部系統の薬剤に対する感受性が低下している影響から、ほ場における発生が目立つ傾向にあった。
ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	一般的に平年並の発生であった。	大半のほ場でカブリダニ等の天敵利用が行われている。近年は天敵利用技術の向上により導入が安定し、多発生が少ない傾向にあった。
コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	一般的に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：やや遅	平年：やや多 前年：並	一般的に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
シロイチモジヨトウ	平年：やや早 前年：－	平年：やや多 前年：－	10月にやや多く発生した。	県南部を中心に本種による被害が発生しつつあった。

(2) 夏秋トマト

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年：－ 前年：－	平年：やや多 前年：やや多	7月に一部圃場で発生が見られた。	6月下旬に平年に比べ日照時間が少なく、発生が増加した。
灰色かび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
葉かび病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	8月をピークに発生がみられた。	梅雨明けが早く少雨傾向であったが、7月の降雨により多湿だったため、発生がみられた。
モザイク病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	発病が疑われる苗の早期除去や媒介虫の防除により、ほ場内での発生が抑えられた。
黄化葉巻病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	全般的には平年より少ない発生であった。	発病が疑われる苗の早期除去や媒介虫の防除により、ほ場内での発生が抑えられた。
すすかび病	平年：遅 前年：遅	平年：並 前年：やや少	全般的に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
うどんこ病	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	定点調査での発生は見られなかった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並 前年：やや早	平年：やや少 前年：少	全般的に少ない発生であったが、6月に平年並の発生があった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	定点調査での発生は見られなかった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナジラミ類	平年：やや遅 前年：やや遅	平年：並 前年：やや少	全般的に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハモグリバエ類	平年：やや遅 前年：並	平年：並 前年：やや多	7月に多く発生がみられたほかは、全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(3) 冬春トマト

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
疫病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	2～3月に発生が見られ、やや少ない発生であった。	7月以降晴天続きとなり、日照時間が確保されたことから発生が抑えられた。
葉かび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	10～11月に平年並の発生が見られた。	抵抗性品種の作付けが増加したため、発生が抑制された。
モザイク病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	アブラムシ類（媒介虫）の発生が少なかつたため、発生が抑えられた。
黄化葉巻病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：多	11月に発生が見られた。	耐病性品種の作付けが増加したため、発生が抑制された。主に、育苗期の感染や感染苗の持ち込み、生育初期の外部からの媒介虫の侵入による発生が考えられた。
すすかび病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	10～12月に平年よりやや多く発生がみられた。	10月になっても高気温の傾向が続き好適条件となったため、発生量が増えた。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：少 前年：－	平年：少 前年：－	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナジラミ類	平年：並 前年：やや遅	平年：やや少 前年：少	全般的にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられたが、ほ場によっては侵入個体からの発生がみられた。
ハモグリバエ類	平年：やや早 前年：やや早	平年：やや少 前年：やや多	全般的に少ない発生であったが、10月に一部ほ場で発生がみられた。	適切な防除により発生が抑えられた。

(4) 夏秋なす

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	6～7月の発生は少なかったが、8～9月は平年並の発生であった。	7～8月の多湿により、発生が増加した。
灰色かび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
半身萎凋病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	輪作、耐病性台木の普及により発生が少なかった。
青枯病	平年：並 前年：並	平年：多 前年：並	8～9月に発生があった。	7月から9月にかけて高温が続き発生が見られた。
すすかび病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	8月に一部ほ場で発生が見られた。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：やや早 前年：やや早	平年：やや多 前年：多	全般的にやや多い発生であった。	春から秋にかけて気温の高い状態が続き、低気温は一時的だったため、発生量が多くなった。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：少	全般的にやや少ない発生であったが、例年発生が少ない9月にも発生がみられた。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	全般的に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
シロイチモジヨトウ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：－	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(5) 夏秋きゅうり

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	6～8月の発生は多く、9月は少ない発生であった。	6月から高温多湿となった日が多く、発生が目立った。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	平年並みの発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
褐斑病	平年：－ 前年：－	平年：多 前年：多	7～8月に発生が多く見られた。	6月から高温多湿となった日が多く、発生が目立った。
疫病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	発生は見られなかった。	適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
黄化えそ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	8月に発生が見られた。	記録的な高温により、アザミウマ類の発生が見られた。
炭疽病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
斑点細菌病	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：－ 前年：－	平年：並 前年：並	6～7月に発生が見られた。	記録的な高温により、ハダニ類の発生が見られた。
ハモグリバエ類	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：やや遅 前年：並	平年：並 前年：やや少	全般的に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナジラミ類	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：並	6～8月にやや多い発生がみられた。	栽培初期に侵入した個体がハウス内に残存し、だらだらと発生が続いた。
アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であったが、6月にやや多い発生が見られた。	適切な防除により発生が抑えられた。

(6) 冬春きゅうり

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：多	3月に散見された。	適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	やや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
うどんこ病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	生育前半にやや少ない発生であったが、1～2月に発生が増加した。	気温が低い時期は発生が抑えられていたが、乾燥条件下となる年明け以降、発生が増加した。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや少	一部発生が見られた。	適切な防除やほ場管理により発生が抑えられた。
疫病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
黄化えそ病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：多	一部発生が見られた。	外部からのアザミウマ類の侵入により発生した。
炭疽病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
斑点細菌病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハモグリバエ類	平年：やや早 前年：－	平年：やや少 前年：やや多	全般的にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：やや遅 前年：遅	平年：やや少 前年：並	全般的にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナジラミ類	平年：並 前年：やや早	平年：やや多 前年：やや多	全般的にやや多い発生であった。	薬剤感受性が低下した生存個体が施設内で越冬し、春先の気温上昇に伴い増加した。
アブラムシ類	平年：早 前年：早	平年：やや少 前年：並	10月に一部ほ場で多発した以外は全般的に少ない発生であった。	10月になっても高気温の傾向が続いたため、施設外からの侵入が目立った。

(7) なら

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
乾腐病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	3月をピークに発生が見られた。	年明け後も、比較的気温が高く推移し、ハウス内が湿潤条件下にさらされた。
白斑葉枯病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	やや少ない～平年並みの発生が見られた。	年明け後も、比較的気温が高く推移し、ハウス内が湿潤条件下にさらされた。
さび病	平年：少 前年：一	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ネグニ	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	期間を通じ一部ほ場で発生が見られたが、発生量としては全般的にやや少ない発生であった。	同一ほ場で長年にわたり作付されており、発生しやすい環境となっていた。

(8) 秋冬ねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：少	7月に発生は平年並であったが、8月以降は少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	7月に平年並みの発生がみられたが、それ以降は発生がなかった。	適切な防除により発生が抑えられた。
黒斑病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	ほぼ平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
萎縮病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：一	全般に少ない発生であった。	アブラムシ類（媒介虫）が少なかったため、発生が抑制された。
アブラムシ類	平年：一 前年：一	平年：少 前年：一	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：やや早 前年：やや早	平年：やや少 前年：少	全般的にやや少ない～平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハモグリバエ類	平年：やや遅 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	全般的にやや多い発生であった。	一部ほ場において、B系統が多発し、集団加害による白変葉が目立った。
ネギコガ	平年：少 前年：一	平年：少 前年：一	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
シロイチモジヨトウ	平年：やや遅 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	県南部を中心に10月頃に多く発生した。	県南部を中心に本種による被害が広がっており、今年は県中部のほ場にも発生が見られた。

(9) たまねぎ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
さび病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般的に平年並の発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
白色疫病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
黒斑病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：少	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般的に平年並みの発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(10) 冬キャベツ

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒腐病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
菌核病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
モンシロチョウ	平年：一 前年：一	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：一 前年：一	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ヨトウガ	平年：一 前年：一	平年：少 前年：一	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(11) あぶらな科野菜

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
アブラムシ類	平年：一 前年：一	平年：少 前年：一	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
コナガ	平年：一 前年：一	平年：少 前年：一	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(12) 冬レタス

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
灰色かび病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
菌核病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
軟腐病	平年：一 前年：一	平年：少 前年：少	全般に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：一 前年：一	平年：少 前年：一	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ヨトウガ	平年：一 前年：一	平年：少 前年：一	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
シロイチモジヨトウ	平年：一 前年：一	平年：少 前年：一	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(13) 野菜共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
ハスモンヨトウ	平年：並 前年：やや遅	平年：並 前年：多	フェロモントラップによる誘殺数は全般的に平年並みとなったが、9月から10月にかけて平年より多く誘殺が見られた。	秋口にも高気温傾向が続いたため、飛翔活動が活発となり、いちごや大豆などで被害が発生した。
オオタバコガ	平年：やや遅 前年：並	平年：多 前年：多	8月下旬以降に誘殺数が急増し、全県的に多発した。	秋口にも高気温傾向が続いたため、飛翔活動が活発となり、いちごや大豆などで被害が発生した。

3) 果樹 (1) なし

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
黒斑病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
黒星病	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	平年並の発生であったが、一部のほ場で6～8月に果実への発生が見られた。	生育期間中、高温傾向で、降水量は概ね平年並であり、適切な防除が行われたため発生が抑えられた。
赤星病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや多	6月以降、一部のほ場で発生した。	一部の菌密度の高いほ場で発生した。
アブラムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：やや多	5月に平年並の発生がみられたほかは、全般的にやや少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハダニ類	平年：やや遅 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	8月に平年並の発生がみられたほかは、全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
シンクイムシ類	平年：並 前年：やや早	平年：やや多 前年：やや多	フェロモントラップにおける発生時期は平年並、発生量はやや多かったが、ほ場における被害は少なかった。	春から秋にかけて気温の高い状態が続き、低気温は一時的だったため、発生量が多くなった。
ハマキムシ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
カイガラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	定点調査での発生は見られなかった。	

(2) ぶどう

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
晚腐病	平年：並 前年：－	平年：少 前年：－	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
べと病	平年：やや遅 前年：並	平年：やや少 前年：並	8月に発生が見られたが、全般的にやや少ない発生であった。	7～8月の気温は高く降水量が平年並であったため発生がやや少なかった。
灰色かび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
黒とう病	平年：やや遅 前年：－	平年：少 前年：並	8月に一部で発生が見られたが、全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類	平年：並 前年：並	平年：並 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
アザミウマ類	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(3) りんご

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
斑点落葉病	平年：早 前年：並	平年：多 前年：並	6月に発生が認められ、9月にかけて増加した。	昨年多発したため感染源が多く、6～7月の高温、6月の多雨のため増加した。
黒星病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：－	ほとんど発生していない。	適切な防除により発生が抑えられた。
赤星病	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：並	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
輪紋病	平年：並 前年：やや早い	平年：やや多 前年：並	8月以降に発生が見られた。	6月の一時的な大雨が発生を助長した。
褐斑病	平年：並 前年：並	平年：やや多 前年：やや少	7月に発生が認められ、9月にかけて増加した。	昨年の発生で感染源がやや多く、6月の多雨が発生を助長した。
ハダニ類	平年：やや遅 前年：－	平年：やや少 前年：やや多	7月に多く発生が見られたほかは、全般的に少ない発生であった。	適切な防除により、発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
シンクイムシ類	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
ハマキムシ類	平年：－ 前年：－	平年：－ 前年：－	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

(4) 果樹共通

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
カメムシ類	平年：遅い 前年：遅い	平年：少 前年：少	フェロモントラップによる誘殺数は全般的にやや多かった。	スギ・ヒノキの球果量は前年並であったが、越冬虫数が少なかったため、次世代成虫の発生も少なく、果樹園への飛来も限定的であった。

4) 花き
(1) きく

病害虫名	発生時期	発生量	発生経過の概要	発生要因の解析
白さび病	平年：並 前年：並	平年：少 前年：並	全般に少ない発生であった。	適切な防除により初期段階で発生が抑えられた。
アブラムシ類	平年：並 前年：やや遅い	平年：多 前年：やや多	散発的に発生が見られたが、適宜防除によりその後の発生は抑えられた。	一部ほ場において、防除の合間に発生が見られたものの、被害は限定的であった。
アザミウマ類	平年：並 前年：やや遅い	平年：やや少 前年：並	全般的に平年並の発生であった。	適宜防除が行われたが、残存個体が継続的に発生した。
ハダニ類	平年：並 前年：並	平年：やや少 前年：やや少	全般的に平年並の発生であった。	適宜防除が行われたが、残存個体が継続的に発生した。
ハスモンヨトウ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：－	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。
シロイチモジヨトウ	平年：－ 前年：－	平年：少 前年：－	全般的に少ない発生であった。	適切な防除により発生が抑えられた。

4 病虫害発生程度別面積

1) 令和5(2023)年度病虫害発生程度別面積(確定) (ha)

作物名	作付面積	病虫害名	甚	多	中	少	計
普通期水稻	51,400	苗立枯病	0	0	0	2	2
		葉いもち	0	0	1400	11700	13,100
		穂いもち	0	0	0	11000	11,000
		紋枯病	1200	3000	0	17600	21,800
		白葉枯病	0	0	0	0	0
		ばか苗病	0	0	0	6	6
		もみ枯細菌病	0	0	0	0	0
		もみ枯細菌病(種子消毒)	0	0	0	0	0
		ごま葉枯病	0	0	600	2800	3,400
		縞葉枯病	0	0	600	22700	23,300
		黄萎病	0	0	0	0	0
		稲こうじ病	0	0	1300	4600	5,900
		ニカメイガI	0	0	0	1300	1,300
		ニカメイガII	0	0	0	0	0
		セジロウンカ	0	0	0	9200	9,200
		トビイロウンカ	0	0	0	0	0
		ヒメトビウンカ	12500	14500	13800	9900	50,700
		ツマグロヨコバイ	0	0	5300	20400	25,700
		イネドロオイムシ	0	0	0	4300	4,300
		斑点米カメムシ類	0	0	8600	10500	19,100
		フタオビコヤガ	0	0	0	2000	2,000
		コブノメイガ	0	0	0	0	0
		イネミズゾウムシ	0	0	12900	8600	21,500
		イナゴ類	0	0	6600	10500	17,100
麦	12,800	うどんこ病	0	0	0	0	0
		赤かび病	0	0	0	1,400	1,400
		黒節病	0	0	0	300	300
		斑葉病	0	0	0	2,300	2,300
大豆	2,510	紫斑病	0	170	170	170	510
		べと病	0	340	1,340	670	2,350
		アブラムシ類	170	170	0	170	510
		ハスモンヨトウ	0	0	80	420	500
		吸実性カメムシ類	0	0	250	750	1,000
		フタスジヒメハムシ	0	0	330	670	1,000
りんご	140	斑点落葉病	0	0	20	120	140
		黒星病	0	0	0	0	0
		赤星病	0	0	0	0	0
		輪紋病	0	0	0	20	20
		褐斑病	0	0	10	130	140
		ナシヒメシンクイ	0	0	0	0	0
		ハマキムシ類	0	0	0	0	0
		ハダニ類	0	0	0	20	20
		アブラムシ類	0	0	0	0	0

作物名	作付面積	病害虫名	甚	多	中	少	計
なし	718	黒斑病	0	0	0	0	0
		黒星病	0	0	0	162	162
		赤星病	0	0	0	108	108
		ナシヒメシンクイ	0	0	0	27	27
		ハマキムシ類	0	0	0	27	27
		ハダニ類	0	0	0	186	186
		カメムシ類	0	0	0	27	27
		カイガラムシ類	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	27	27	27	133	214
ぶどう	213	晩腐病	0	0	0	0	0
		黒とう病	0	0	0	21	21
		べと病	0	0	0	21	21
		灰色かび病	0	0	0	0	0
		チャノキイロアザミウマ	0	0	0	0	0
		ハダニ類	0	0	0	0	0
		ハマキムシ類	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
夏秋トマト	108	疫病	0	0	10	0	10
		灰色かび病	0	0	0	0	0
		モザイク病	0	0	0	0	0
		葉かび病	60	0	0	24	84
		うどんこ病	0	0	12	48	60
		すすかび病	0	0	12	60	72
		黄化葉巻病	0	0	0	0	0
		アザミウマ類	0	0	0	0	0
		コナジラミ類	0	0	12	60	72
		アブラムシ類	0	0	0	11	11
		ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0
冬春トマト	185	疫病	0	0	0	0	0
		灰色かび病	0	0	0	50	50
		モザイク病	0	0	0	0	0
		葉かび病	0	0	0	21	21
		うどんこ病	0	0	0	8	8
		すすかび病	0	0	0	51	51
		黄化葉巻病	0	0	17	25	42
		コナジラミ類	0	0	0	76	76
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
		ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0
夏秋ナス	269	うどんこ病	0	0	0	135	135
		灰色かび病	0	0	0	0	0
		すすかび病	0	0	0	34	34
		青枯病	0	0	0	34	34
		アザミウマ類	0	0	0	202	202
		コナジラミ類	0	0	0	115	115
		オオタバコガ	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	0	0	38	38	76
		ハダニ類	77	0	38	115	230

作物名	作付面積	病害虫名	甚	多	中	少	計
夏秋キュウリ	193	べと病	0	0	43	150	193
		炭そ病	0	0	0	0	0
		疫病	0	0	0	0	0
		うどんこ病	0	0	28	110	138
		斑点細菌病	0	0	0	0	0
		灰色かび病	0	0	0	0	0
		褐斑病	0	28	0	0	28
		アザミウマ類	0	0	0	154	154
		ハダニ類	0	0	28	0	28
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
		コナジラミ類	0	0	39	77	116
		ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0
冬春キュウリ	43	べと病	0	0	16	16	32
		炭そ病	0	0	0	8	8
		疫病	0	0	0	0	0
		うどんこ病	0	0	11	11	22
		斑点細菌病	0	0	0	0	0
		モザイク病	0	0	0	0	0
		灰色かび病	4	0	0	0	4
		褐斑病	0	0	0	7	7
		アザミウマ類	0	0	0	9	9
		ハダニ類	0	0	0	5	5
		アブラムシ類	0	0	0	4	4
		コナジラミ類	4	9	0	26	39
冬キャベツ	81	黒腐病	0	0	0	0	0
		菌核病	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
		コナガ	0	0	0	0	0
		ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0
タマネギ	234	白色疫病	0	0	0	0	0
		べと病	0	33	0	100	133
		さび病	0	0	0	0	0
		ボトリチス属菌による葉枯れ	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
		ネギアザミウマ	0	46	94	94	234
秋冬ネギ	478	さび病	60	60	0	179	299
		黒斑病	0	0	120	359	479
		萎縮病	0	0	0	0	0
		べと病	0	0	0	60	60
		シロイチモジヨトウ	0	60	60	60	180
		ハスモンヨトウ	0	0	0	60	60
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
		ネギハモグリバエ	120	0	0	0	120
		ネギアザミウマ	120	0	60	179	359
		ネギコガ	0	0	0	0	0

作物名	作付面積	病害虫名	甚	多	中	少	計
冬レタス	79	灰色かび病	0	0	0	0	0
		菌核病	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
		ハスモンヨトウ	0	0	0	20	20
		オオタバコガ	0	0	0	0	0
イチゴ	505	灰色かび病	0	0	0	31	31
		うどんこ病	0	0	0	8	8
		炭そ病	0	0	0	47	47
		アブラムシ類	8	0	34	59	101
		アザミウマ類	0	0	8	67	75
		ハダニ類	0	8	25	177	210
		ハスモンヨトウ	16	0	31	62	109
きく	97	白さび病	0	0	0	0	0
		アザミウマ類	10	0	0	0	10
		アブラムシ類	0	10	10	10	30
		ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0

※作付面積：農林水産省の統計データを参照。

2) 令和6(2024)年病害虫発生程度別面積(速報) (ha)

作物名	作付面積	病害虫名	甚	多	中	少	計
普通期水稻	51,400	苗立枯病	0	0	0	0	0
		葉いもち	0	0	0	14,900	14,900
		穂いもち	0	0	0	13,200	13,200
		紋枯病	4,900	6,900	4,900	19,400	36,100
		白葉枯病	0	0	0	1,300	1,300
		ばか苗病	0	0	0	2	2
		もみ枯細菌病	0	0	0	0	0
		もみ枯細菌病(種子消毒)	0	0	0	0	0
		ごま葉枯病	0	0	0	9,700	9,700
		縞葉枯病	0	0	0	17,300	17,300
		稲こうじ病	0	0	0	4,200	4,200
		ニカメイガI	0	0	0	3,300	3,300
		ニカメイガII	0	0	0	660	660
		セジロウンカ	0	0	0	23,700	23,700
		トビイロウンカ	0	0	0	0	0
		ヒメトビウンカ	2,000	19,100	19,100	10,500	50,700
		ツマグロヨコバイ	0	0	4,000	19,100	23,100
		イネドロオイムシ	0	0	0	0	0
		斑点米カメムシ類	660	4,000	5,300	10,500	20,460
		フタオビコヤガ	0	0	680	2,700	3,380
		コブノメイガ	0	0	0	0	0
		イネミズゾウムシ	0	0	12,900	8,600	21,500
麦	12,800	うどんこ病	0	0	0	300	300
		赤かび病	0	0	0	11,600	11,600
		黒節病	0	0	0	1,000	1,000
		斑葉病	0	0	0	0	0
大豆	2,510	べと病	1,800	200	200	100	2,300
		アブラムシ類	0	0	0	1,800	1,800
		ハスモンヨトウ	0	0	0	80	80
		吸実性カメムシ類	0	0	0	920	920
		フタスジヒメハムシ	0	80	80	420	580
りんご	140	斑点落葉病	0	0	20	120	140
		黒星病	0	0	0	0	0
		赤星病	0	0	0	0	0
		輪紋病	0	0	0	80	80
		褐斑病	0	0	0	140	140
		ナシヒメシンクイ	0	0	0	0	0
		ハマキムシ類	0	0	0	0	0
		ハダニ類	0	0	0	80	80
		アブラムシ類	0	0	0	20	20

作物名	作付面積	病害虫名	甚	多	中	少	計
なし	718	黒斑病	0	0	0	0	0
		黒星病	0	0	0	106	106
		赤星病	0	27	53	189	269
		輪紋病	0	0	0	0	0
		ナシヒメシンクイ	0	0	0	0	0
		ハマキムシ類	0	0	0	0	0
		ハダニ類	80	0	0	319	399
		カメムシ類	0	0	0	133	133
		カイガラムシ類	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	53	53	80	293	479
ぶどう	213	晩腐病	0	0	0	0	0
		黒とう病	0	0	0	21	21
		べと病	0	0	21	21	0
		灰色かび病	0	0	0	0	0
		チャノキイロアザミウマ	0	0	0	0	0
		ハダニ類	0	0	0	0	0
		ハマキムシ類	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
夏秋トマト	108	疫病	0	0	0	0	10
		灰色かび病	0	0	0	10	10
		モザイク病	0	0	0	0	0
		葉かび病	0	0	0	10	10
		うどんこ病	10	10	29	10	59
		すすかび病	0	0	10	10	20
		黄化葉巻病	0	0	10	10	20
		アザミウマ類	0	0	9	20	29
		コナジラミ類	12	0	12	72	96
		アブラムシ類	0	11	0	0	11
		ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0
夏秋ナス	269	うどんこ病	77	0	38	38	154
		灰色かび病	0	0	0	0	0
		すすかび病	0	0	0	0	0
		青枯病	0	0	34	0	34
		アザミウマ類	0	0	101	135	235
		コナジラミ類	0	0	0	149	149
		オオタバコガ	45	0	45	45	135
		アブラムシ類	0	0	0	101	101
		ハダニ類	0	0	34	135	168

作物名	作付面積	病害虫名	甚	多	中	少	計
夏秋キュウリ	193	べと病	0	0	28	165	193
		炭そ病	0	0	28	0	0
		疫病	0	0	0	0	0
		うどんこ病	0	0	0	129	129
		斑点細菌病	0	0	0	0	0
		灰色かび病	0	0	0	0	0
		褐斑病	0	0	28	28	55
		アザミウマ類	28	0	0	28	56
		ハダニ類	0	0	32	32	64
		アブラムシ類	0	0	0	55	55
		コナジラミ類	0	0	0	193	193
		ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0
タマネギ	234	白色疫病	0	0	0	0	0
		べと病	0	0	0	117	117
		さび病	0	0	0	0	0
		ボトリチス属菌による葉枯れ	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	94	94
		ネギアザミウマ	0	0	0	140	140
秋冬ネギ	478	さび病	0	60	60	120	239
		黒斑病	179	120	60	120	478
		萎縮病	0	0	0	0	0
		べと病	0	60	0	0	60
		シロイチモジヨトウ	0	60	0	120	180
		ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0
		アブラムシ類	0	0	0	0	0
		ネギハモグリバエ	120	0	0	0	120
		ネギアザミウマ	120	120	0	120	360
		ネギコガ	0	0	0	0	0
イチゴ	505	灰色かび病	0	0	0	0	0
		うどんこ病	9	9	36	54	108
		炭そ病	0	19	0	19	37
		アブラムシ類	17	8	17	67	109
		コナジラミ類	0	0	0	34	34
		ハダニ類	0	25	25	177	227
		ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0
きく	97	白さび病	0	0	0	0	0
		アザミウマ類	0	10	10	0	20
		アブラムシ類	29	0	0	19	48
		ハスモンヨトウ	0	0	0	0	0

※作付面積：農林水産省の統計データを参照。

5 病害虫診断結果

1) 病害虫診断状況

作物種類	病害・虫害の別	令和5年度 第4四半期	令和6年度 第1四半期	第2四半期	第3四半期	合計
普通作物	病害	0	6	2	0	8
	虫害	0	1	0	0	1
	その他	0	1	0	1	2
野菜	病害	12	22	14	10	58
	虫害	0	1	5	2	8
	その他	3	6	11	8	28
果樹	病害	1	0	1	1	3
	虫害	0	0	0	0	0
	その他	1	2	0	2	5
花き	病害	1	7	5	1	14
	虫害	0	0	1	0	1
	その他	1	0	5	3	9
その他	病害	0	0	0	0	0
	虫害	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
合計		19	46	44	28	137

2) 病害虫診断結果一覧

受付月日	依頼者所属	発生場所	作物名	品種名	結果分類	病害虫名
令和6年 1月11日	河内農振	宇都宮市	トマト	(TTM-178× 台木TTM- 158)	病害	黄化病
1月11日	河内農振	宇都宮市	トマト	かれん×台木 ボランチ	病害	黄化病
1月11日	河内農振	宇都宮市	トマト	TTM-178 (× 台木TTM- 158)	病害	黄化病
1月11日	塩谷南那須農振	塩谷町	トマト	穂木：SC8- 173 台木： 自根	病害	トマト根腐萎凋 病または萎凋病
1月19日	芳賀農振	真岡市	シュンギク	さとあきら	病害	葉枯病
1月19日	芳賀農振	真岡市	シュンギク	さとあきら	病害	葉枯病
1月23日	塩谷南那須農振	塩谷町	きく	ヌーボ	その他	—
1月25日	安足農振	佐野市	もも		その他	—
3月5日	全農とちぎ	塩谷町	たまねぎ	ネオアース	その他	—
3月5日	河内農振	下野市	たまねぎ	ジェットボー ル	病害	腐敗病
3月5日	河内農振	下野市	たまねぎ	ジェットボー ル	病害	腐敗病
3月12日	上都賀農振	栃木市	アジサイ	県育成品種	病害	斑点細菌病
3月19日	芳賀農振	真岡市	たまねぎ	甘70	病害	苗立枯病
3月22日	河内農振	宇都宮市	トマト	TTM-179×ボ ランチ	病害	黄化病
3月24日	芳賀農振	芳賀町	なし	にっこり	病害	輪紋病
3月25日	河内農振	宇都宮市	ミニトマト	アンジェレ	病害	灰色かび病
3月25日	河内農振	宇都宮市	ミニトマト	アンジェレ	病害	葉かび病 すすかび病 灰色かび病

受付月日	依頼者所属	発生場所	作物名	品種名	結果分類	病害虫名
3月25日	河内農振	上三川町	ミニトマト	TY千果	その他	ー
3月25日	河内農振	上三川町	ミニトマト	TY千果	その他	ー
4月3日	河内農振		トマト	かれん	病害	トマト立枯病
4月8日	上都賀農振	鹿沼市	トマト	麗容	その他	ー
4月12日	河内農振	上三川町	トマト	りんか409× グランシールド	病害	トマトフザリウム株腐病
4月12日	上都賀農振	栃木市	シクラメン		病害	シクラメン萎凋病
4月12日	下都賀農振	栃木市	ぶどう	巨峰 シャインマスカット	その他	ー
4月16日	米麦改良協会		稲	月の光	その他	ー
4月18日	全農とちぎ	塩谷町	たまねぎ	甘70	病害	黒斑病
4月22日	全農とちぎ	藤岡町	たまねぎ	アドバンス	病害	りん片腐敗病 または腐敗病
4月22日	全農とちぎ	小山市	たまねぎ	もみじ3号	病害	たまねぎえそ条斑病
4月25日	上都賀農振	日光市	なす	千両	病害	ナス青枯病
4月26日	塩谷南那須農振	さくら市	にんにく	福地ホワイト六片	病害	ニンニク葉枯病
4月30日	河内農振	宇都宮市	いちご	とちあいか	病害	イチゴ黒色根腐病
5月1日	河内農振		トマト	トマト（桃太郎ピース×TTM-158）	その他	
5月1日	芳賀農振		稲	夢あおば	病害	ばか苗病
5月2日	塩谷南那須農振		稲	コシヒカリ	病害	ばか苗病
5月7日	那須農振	矢板市	キク	精の光彩	病害	ピシウム立枯病
5月8日	河内農振	上三川町	ニラ	ゆめみどり	病害	株腐細菌病
5月8日	芳賀農振	芳賀町	なし	にっこり、あきづき	その他	ー
5月14日	河内農振	上三川	ミニトマト	ミニトマト（TY千果×キングバリア）	病害	萎凋病
5月14日	芳賀農振	宇都宮市	キク	セイカイラ、セイリポル ホットピンク	病害	キク茎えそ病
5月14日	全農とちぎ		たまねぎ	タマネギ（もみじ3号）	病害	タマネギ葉枯病 タマネギべと病
5月15日	上都賀農振	日光市	いちご	ミルキーベリー	病害	根腐萎凋病
5月16日	河内農振	上三川町	トマト	ミニトマト（フラガール×スパイクセブン）	病害	トマトモザイク病
5月17日	全農とちぎ	高根沢町	たまねぎ	ケルタマ	病害	タマネギ葉枯病

受付月日	依頼者所属	発生場所	作物名	品種名	結果分類	病害虫名
5月17日	全農とちぎ	塩谷町	たまねぎ	ネオアース	病害	タマネギ葉枯病
5月20日	下都賀農振		小麦		病害	赤かび病
5月20日	河内農振	壬生町	りんどう	るりおとめ	病害	ウイルス病
5月21日	上都賀農振	鹿沼市	じゃがいも	メーカーイン	虫害	ウイルス病
5月22日	下都賀農振	小山市南小林	小麦	ゆめかおり	病害	赤かび病
5月23日	芳賀農振	益子町芦沼 1285-5	水稻	コシヒカリ	虫害	ガガンボ類
5月24日	上都賀農振	日光市	イチゴ	とちおとめ	病害	萎黄病 根腐萎凋病
5月29日	河内農振	宇都宮市	トマト	TTM-178×グ リーンセーブ	その他	－
5月30日	塩谷南那須農振	塩谷町	スプレーギク	ホットピンク	病害	キク茎えそ病
6月3日	塩谷南那須農振	さくら市	小麦	ゆめかおり	病害	なまぐさ黒穂病
6月7日	河内農振	宇都宮市	イチゴ	とちあいか	その他	－
6月7日	河内農振	宇都宮市	イチゴ	なつおとめ	病害	炭疽病
6月7日	河内農振	宇都宮市	ニラ	ゆめみどり	病害	株腐細菌病
6月11日	芳賀農振		スプレーギク	セイフレイ	病害	キクわい化病
6月11日	上都賀農振	日光市	なす	PC鶴丸	病害	ナス半身萎凋病
6月12日	芳賀農振	芳賀町	小麦	タマイズミ	病害	赤かび病
6月18日	塩谷南那須農振	塩谷町	スプレーギク	ワッツアッ プ、ピーチェ	病害	キク萎凋病
6月20日	河内農振	宇都宮市	トマト	TTM-179×グ リーンフォース	病害	トマト立枯病
6月26日	上都賀農振	日光市	いちご	ミルキーベ リー	病害	イチゴ萎黄病
6月26日	上都賀農振	日光市	いちご	とちおとめ	病害	イチゴ萎黄病
6月28日	河内農振	宇都宮市	ねぎ	項羽一本太	その他	－
6月28日	河内農振	宇都宮市	ねぎ	羽生一本太	その他	－
7月2日	上都賀農振	鹿沼市	ニラ	ミラクル	その他	－
7月4日	芳賀農振	真岡市	トマト	フルティカ (中玉)	病害	萎凋病
7月8日	芳賀農振	市貝町	キク	はなともえ	病害	萎凋病
7月16日	上都賀農振	鹿沼市	いちご	とちあいか	その他	－
7月16日	河内農振	宇都宮市	トマト	TTM-177×グ ランシールド	その他	－
7月16日	河内農振	上三川町	トマト	TY千果×グ リーンフォース	病害	トマト萎凋病
7月17日	那須農振	大田原市	クリスマス ローズ		その他	－
7月17日	那須農振	那須町	スプレーギク	ロリポップ、 ペップトーク	病害	ピシウム立枯病
7月19日	河内農振	上三川町	いちご	ミルキーベ リー	病害	イチゴピシウム 根腐病
7月22日	農大	宇都宮市	いちご	ミルキーベ リー	病害	黒色根腐病
7月23日	上都賀農振	鹿沼市	ニラ		虫害	ネダニ類

受付月日	依頼者所属	発生場所	作物名	品種名	結果分類	病害虫名
7月24日	河内農振	宇都宮市	メロン	雅 夏系	その他	－
7月25日	河内農振	宇都宮市	ゆり	オカヤマ	その他	－
7月31日	河内農振	宇都宮市	いちご	とちおとめ	その他	－
8月1日	那須農振	大田原市	きゅうり	豊美2号	病害	疫病
8月5日	下都賀農振	－	いちご	とちあいか	病害	黒色根腐病、萎黄病
8月5日	河内農振		いちご	とちあいか	病害	炭疽病
8月6日	上都賀農振	鹿沼市	スプレーマム		病害	立枯病
8月9日	那須農振	那須塩原市	いちご	とちあいか	その他	－
8月9日	那須農振	大田原市	いちご	とちあいか	その他	－
8月13日	塩谷南那須農振	さくら市	ばら	ブロッサムピンク	その他	－
8月19日	全農とちぎ	宇都宮市	いちご	とちあいか なつおとめ	その他	－
8月19日	農業者	宇都宮市	いちご	とちあいか	その他	－
8月20日	塩谷南那須農振	大田原市	リンドウ	みやまくん	虫害	ネコブセンチュウ
8月21日	上都賀農振	鹿沼市	いちご	とちあいか	その他	－
8月21日	上都賀農振	栃木市	いちご	とちおとめ	病害	萎黄病
8月21日	河内農振	宇都宮市	ゆり	オカヤマ	その他	－
8月23日	塩谷南那須農振	さくら市	いちご	とちあいか	虫害	センチュウ類
8月28日	河内農振	宇都宮市下ヶ橋町	ねぎ		虫害	ネダニ類
8月28日	河内農振	宇都宮市白沢町	ねぎ		虫害	ネダニ類＋萎凋病
9月2日	下都賀農振	栃木市大平町	ダイズ		病害	斑点細菌病
9月3日	塩谷南那須農振	那須塩原市	カーネーション	ミルキーウェイ	病害	立枯病
9月3日	下都賀農振	小山市	なし	豊水	病害	炭疽病
9月4日	塩谷南那須農振	塩谷町	キク	笑の空、笑の杜	その他	－
9月13日	上都賀農振	日光市	シクラメン	リップピンク	病害	葉腐細菌病
9月13日	下都賀農振	栃木市	トマト	かれん×グランシールド	病害	黄化えそ病
9月24日	河内農振	宇都宮市	トマト	みそら64×グランシールド	病害	斑点細菌病
9月24日	全農とちぎ	さくら市	ショウガ		病害	根茎腐敗病
9月25日	下都賀農振	小山市	いちご	とちおとめ	虫害	チャノホコリダニ
9月26日	下都賀農振	栃木市	いちご	とちあいか	その他	
9月25日	下都賀農振	壬生町	トマト	かれん	病害	黄化葉巻病
9月25日	下都賀農振	栃木市岩舟町	水稻	あさひの夢	病害	紋枯病 球状菌核病
9月25日	河内農振	宇都宮市	いちご	とちあいか	病害	炭疽病
9月27日	上都賀農振	日光市	いちご	ミルキーベリー	病害	イチゴ萎黄病
10月4日	河内農振	河内農振管内全域	なし	にっこり	その他	－
10月7日	那須農振	大田原市	アルンクス	シャンテリーレース	その他	－
10月7日	那須農振	那須塩原市	ほうれんそう	－	その他	－

受付月日	依頼者所属	発生場所	作物名	品種名	結果分類	病害虫名
10月7日	那須農振	大田原市	なし	にっこり	その他	ー
10月9日	塩谷南那須農振	さくら市	いちご	とちあいか・いちご親苗（フリー苗）	その他	ー
10月9日	河内農振	宇都宮市	トマト	かれん×ボランチ	その他	ー
10月9日	河内農振	宇都宮市	トマト	桃太郎ピース×アシスト	病害	トマト斑点細菌病
10月9日	河内農振	宇都宮市	トマト	桃太郎ピース×アシスト	病害	トマト半身萎凋病
10月11日	塩谷南那須農振	高根沢町	いちご		その他	ー
10月11日	芳賀農振	真岡市	トマト	アイコ（ミニ）	病害	萎凋病
10月15日	上都賀農振	日光市土沢	大豆	里のほほえみ	その他	ー
10月16日	河内農振	上三川町	しゅんぎく		その他	ー
10月16日	上都賀農振	鹿沼市	トマト	麗容	病害	トマト青枯病
10月16日	塩谷南那須農振	高根沢町	たまねぎ	甘丸ルビー	病害	タマネギ乾腐病
10月16日	塩谷南那須農振	矢板市	わさび菜		その他	ー
10月23日	芳賀農振	真岡市東大島	いちご	いちご（とちおとめ）	その他	ー
10月25日	上都賀農振	日光市	キウイフルーツ	レッドキウイ	病害	炭疽病
10月25日	河内農振	宇都宮市	クレソン		病害	クレソン斑点病
10月31日	河内農振	宇都宮市新里町丁	トマト	トマト（TTM-179×キングバリア）	虫害	ムラサキトビムシ
11月7日	塩谷南那須農振	さくら市	いちご	とちあいか	病害	炭疽病 萎凋病
11月8日	上都賀農振	鹿沼市	トマト	れおん、台木：がんばる根サバンナ	病害	トマト青枯病
11月8日	塩谷南那須農振	那須塩原市	カーネーション	ミルキーウェイ	病害	斑点病 萎凋病
11月13日	河内農振	宇都宮市	ユリ	バンドームプレミアムブロード	その他	ー
11月18日	芳賀農振	まし駒t	コルジリネ		その他	ー
11月26日	塩谷南那須農振	高根沢町	たまねぎ	フレッシュレッド	病害	乾腐病
12月4日	芳賀農振	芳賀町下高根沢	トマト	トマト（かれん）	虫害	トマトキバガ
12月5日	上都賀農振	鹿沼市	トマト	かれん	病害	黄化病
12月11日	塩谷南那須農振	高根沢町	しゅんぎく	さとあきら	その他	ー

6 病害虫侵入調査

以下の28種の病害虫について、誘引トラップの設置、各作物の栽培ほ場の巡回により発生状況の調査を行った結果、10月にフェロモントラップでトマトキバガの誘殺が認められた（病害虫発生予察特殊報第1号発表）。

調査作物等	病害虫名	調査地点数	調査月	調査結果
フェロモントラップ	コドリングア	2	3～11月	発生なし
フェロモントラップ	トマトキバガ	3	3～11月	10月に成虫を誘殺
トマト	<i>Meloidogyne enterolobii</i>	4	5月	発生なし
トマト	Columnnea latent viroid (CLVd)	4	7月	発生なし
トマト	Pepper chat fruit viroid (PCFVd)	4	7月	発生なし
トマト	トマト退緑萎縮ウイロイド (TCDVd)	4	7月	発生なし
トマト	Tomato apical stunt viroid (TASVd)	4	7月	発生なし
トマト	Pepino mosaic virus (PepMV)	4	5月	発生なし
トマト	Tomato brown rugose fruit virus (ToBRFV)	4	10月	発生なし
トマト	Tomato mottle mosaic virus (ToMMV)	3	10月	発生なし
トマト	Tomato leaf curl New Delhi virus (ToLCNDV)	2	10月	発生なし
トマト	バナナネモグリセンチュウ	4	5月	発生なし
トマト	コロンビアネコブセンチュウ	3	5月	発生なし
トマト	ジャガイモやせいもウイロイド (PSTVd)	3	7月	発生なし
ばれいしょ	コロラドハムシ	2	6月	発生なし
ばれいしょ	ジャガイモシストセンチュウ	2	6月	発生なし
ばれいしょ	ジャガイモシロシストセンチュウ	2	6月	発生なし
ばれいしょ	ジャガイモがんしゅ病菌	2	6月	発生なし
ばれいしょ	<i>Thecaphora solani</i>	2	6月	発生なし
りんご	火傷病	3	6月、7月	発生なし
トマト	カンキツネモグリセンチュウ	2	5月	発生なし
ぶどう	<i>Xylella fastidiosa</i>	2	6月	発生なし
稲	イネミイラ穂病菌等その他国内未発生のイネの病害	4	8月	発生なし
キャベツ	テンサイシストセンチュウ	2	10月	発生なし
小麦	<i>Ramularia collo-cygni</i>	3	5月	発生なし
きゅうり	スイカ果実汚斑細菌病菌	2	5月、8月	発生なし
大豆	インゲンマメ萎ちよう細菌病菌	2	8月	発生なし
うめ	ウメ輪紋ウイルス (PPV)	1	6月	発生なし